

下関市立学校適正規模・適正配置基本計画策定に伴う地元説明会

1. 場 所：向洋中学校 音楽室
2. 日 時：令和7年7月12日 14:00~15:45
3. 参加人数：19名（教育委員会を除く）
4. 主な質疑

■参加者

前回の説明会では、向山小学校が入っているの小中一貫校にするという計画案だったが、今回向山小学校が外れているのはどうしてか。

□教育委員会

前回の3期計画では、小学校3校と中学校2校の統合で、小中一貫教育校として神田小の位置での計画だった。3期計画は、学校統合に合わせて小規模校の課題を解消するために、小中一貫校の手法も取り入れた。

おおむね5年計画で進めているが、小規模校でありながら適正規模の確保ができていない学校もまだある中で、4期計画については、特に小規模の学校、資料の左下にあるように小学校・中学校5学級以下の学校について優先対象校としている。特に小規模になった学校について、早期に小規模化を解消していくことを重視している。

5学級以下になると小学校では、1学年に1学級編制できないようになっており、2学年1学級の複式学級という形にしている。関西小学校は今そういう状態にある。そういった小規模校をまず優先して解消していくことが重要だというのが4期計画の考え方。これは全市の考え方。

3期計画のときに3小2中の大きな統合を提案し、その中に向山小学校が入っていたが、向山小学校については令和12年度で8クラスあるという推計のため、必ずしも優先的に取り組む状況にはない。

3期計画の説明の際、小学校の低学年などが後田から神田まで歩くのは非常に危険ではないかという、通学の不安があるという意見をたくさん頂いた。そのあたりを加味して、向山小は優先して取り組む形ではないという判断をして、まずは関西小と桜山小の統合を優先して取り組むべきということになる。小中一貫校であれば、中学校1校と小学校1校になる。今回の計画案で言うと、2中

学校が統合したとして 1 中学校、小学校は向山小学校と、関西小学校と桜山小学校が統合した 2 校になるので、小中一貫校は今回提案していない。

■参加者

前回に比べて改善されたのは、説明があったとおりスクールバスの運行を検討していることと、既存施設の有効活用。挨拶の中で子どもの教育環境の優先とあった。ではなぜ神田小学校の跡地が統合した中学校なのか。地理的な要因、あそこにもっていった理由は。

向洋地区は非常に環境がよい。陽当たりもよい。体育館も陸上競技場もある。スクールバスの運行を検討するのであれば大型車も入る。神田小学校はスクールバスであれば、マイクロバスなど小さいものしか使えない。下関短期大学の通りは、非常に交通量が多い。難しいのではないか。神田小学校の跡地に統合した中学校をもっていく根本的な理由は。

□教育委員会

学校位置については、3 期計画のときにも説明をしたが、2 中学校が統合した場合、校区のより中心に近いところに、廃校になっている神田小跡地、学校用地があるということが考え方。

■参加者

実際に新校舎予定地になる神田小学校を見ているのか。

それから教育政策課が考える、児童生徒にとって良い教育環境とはどういうものか。根本的なところを聞かせてほしい。

□教育委員会

私自身が神田小跡地をくまなく見ているという状況ではない。

環境については、今回の適正規模・適正配置は、学校運営の中の人数に関して、課題を解消していくという取組。学校規模が小さくなり学級数が少なくなる。小さい学校には小さい学校のよさ、大きい学校には大きい学校のよさがある反面、それぞれに課題がある。小規模校については、各学校の様々な努力で学校運営に当たっているが、小規模の学校の複式学級になると、よい授業を進めるのが難しくなる。2 学年を同時に進めないといけないという課題がある。小規模校のメリットもあるが、その課題を解決していかないといけないというのが今回の取組。

教育環境といえば物理的な環境もあるし、教育内容の質もあると思う。建物の質、教育のカリキュラムの質、様々な環境があると思う。今回、学校規模が小さくなったことにより学級運営が難しくなってきたという課題を解決したい。

■参加者

生徒が少なくなっているから、統合に反対しているわけではない。統合は致し方ないと思っているが、問題は学校の置かれる場所。神田小学校に行ってみたことはないと言ったが、あの狭いところで中学校 2 つ統合して、大人になる過程の中学生が伸び伸びと学習できるというのか。

□教育委員会

くまなく見ている状況ではないと言ったので、神田小学校を見ていないと言うわけではない。場所の状況は承知をしているし、その前の道路等がどういう状況かも理解している。

場所においても、良さも課題もある。向洋中学校は東駅の所で緑も豊か。着目しているのは、校区のより中心に近いところに、学校用地があるのでこの場所をとっている。神田小学校の位置が非常に悪いという判断はしていないし、すべて良いとも思っていない。

■参加者

既存の校舎を利用することも考えているとのことだが、小学校の校舎に中学生が入ると思うのか。建て替えるのなら、既存の校舎は不要ではないのか。

□教育委員会

予算があることなので、当然予算執行するには議会の議決が必要である。神田小学校跡地については、3 期計画までは、古いものは使わなくてはならないということで、非常に苦労しながら頑張る前提で話をしていたが、このたびの 4 期計画では旧神田小学校は建て替えを検討している。繰り返すが予算を伴うことなので、ここで建てかえると約束できないのは心苦しい。狭いところで、昔の校舎を使うのはどうなのかと検討した。この校舎は 65 年たっている。教育委員会としては旧神田小に新しい環境を整えて、文洋中学校、向洋中学校をそこに 1 つの学校としてスタートさせたいという形で検討している。市内いろいろあるので、既存の校舎を使って工夫するところと、新しいものを使うところはそれぞれ事情はあるが、旧神田小学校については、新しいものを作っていくことで検討に入っている。

■参加者

子供がよりよい環境で、勉強、運動にまい進する。そういう中で、まず統合の場合地理的条件がある。周辺の子供が、統合した学校に通学する負担のことを考えれば神田小学校ということ。文洋か向洋にするとどちらかが遠距離という問題が出てくる。そうなる、まずは子供の教育環境最優先、それからもう1つ大事なものは、子供の通学に対して、より安全安心を持たせるために、バスは出せないのかという話になる。学校の中心から半径4キロ切る場合は出せないという見解を頂いた。子供の安全を重視した場合、そのようなものは取り払って出せばよい。交通量が多いなら、バスの運行も考えれば、よりよい環境にある学校をわざわざ中心に持っていくという考え方はない。

■参加者

私の地域は、日新中校区との境目にある。神田小学校に行く場合は、反対に文関や日新に行くとしたら道路をまたぐとすぐ。適正配置の中の3番、中学校区域の見直し検討ということもあるので、後田町に2丁5丁4丁とあるが、その辺の区分は何かお考えか。

□教育委員会

具体的に統廃合を進めるとか、統合の範囲が定まった中で検討していく形になると思う。現時点では、その地区の子供はどこに行くというような想定をしていない。本決まりになって、様々なものを具体的に決めていく形になったときに、様々な方面から意見を頂きながら、決めていくような形になろうと思う。

■参加者

いろいろな話を聞いて、ある程度納得できるような気持ちにはなってきたが、新しい学校は何を目標にする、こういう学校を作るということを、初めに明記して伝えてもらえれば、何となく納得できる部分もあったのではないかと。前は距離的なことが中心に言われたので、そうするとこちらに住んでいる住民は、歴史とか学校愛とかいろいろあるので、反対が出るのは当然。住民はここを利用した卒業生なのでそうなることはわかる。それよりも、こういう教育をしたい、環境はこうだということ伝えてもらえれば、もっと話がうまくいくと思う。

この計画が平成21年から始まったことは初めて聞いた。令和7年度から令和11年度までの5か年計画の推計の数字が出ているが、この子供の数字はどこまである程度収まるのかとか、また増えることは全然ないのか、位置が変わって小学校に行ったら子供が増えたとか、そういう想定の数値とか、そういうことまでは考えられているのか疑問。

新校舎を作る計画があると聞いて、子供の環境とか教育関係がずっと良くなるということアピールしてもらえば、聞く側にとっても期待を持ち、どうかなという意見も出てくると思う。

□教育委員会

適正規模・適正配置基本計画の児童生徒数の推計については、予測をもって推計することは統計的にはあり得ると思うが、前提条件をどうするかによって全然違う結果が出てくる。実際のところ、その綿密な推計を立てるのは難しいと思う。その中で説得力のあるデータとして、生まれてから6歳まで子供の人口は各校区何人いるかは、実データとしてわかっている。0歳児から6歳児が、そのままその地区で過ごした場合に、その校区で小学校に入学し、その小学校にいた子供たちが中学校に入学した場合の推計をとっている。この推計は仮定をもとにする推計よりも、比較的信頼できるデータと捉えている。そこで、長期的な計画期間をもつのではなく、5年間というくくりで計画をしている。今回、実データをもとにして令和12年の推計したクラス数を予測して、そこで優先対象校についてどう考えるかということで取り組んでいる。

彦島に中等教育学校ができた。以前は小学生はそのまま中学校に上がるということだったが、中等ができて、ある一定数は地元なので中等へ行く子どもがいる。彦島の中学校も昔はすごく多かった。彦島だけではなく中等へ市内から電車で通う人もいる。これは下関市立の中学校ではなく県立学校。御案内の通り、西高が近いうちに中学校を作る。市立の中学校を選んでくれる生徒もいるし、そうでない生徒も出てくると考えたときに、西高に行ってみようということができて、外向きには選択肢が増えてよかったが、市立学校を預かる身とすれば、やはり取られて（言い方が不適切だが）いるような思いもある。そして、小学校1年生に上がるときも、このあたりでは九州の方にも流れて小学校から私学に行く人もいるので、市立学校の魅力を上げていかないといけないのも強い気持ちで持っているし、一方では選択肢が広がった中学生小学生がいるのも間違いない。推計については、西高2クラス分は全体の中で移っていくのではないかという推計はしている。小学生が必ず上がるか上がらないかはわからないので、そのまま住民票のところに上がるという形で推計している。

■参加者

近郊の市民病院も、近い将来移設されるという話。中学校の適正化の話も、市の将来展望の中で、跡地利用を検討することや、将来生徒のためにこういう中学校を神田小学校に建てた方がよいという話があるのか。

□教育委員会

決まったものはないと思う。体育館ができて、陸上競技場もあって、大きな大会をここで開催する場合、例えばサブグラウンドがいるのではないかというような議論というのはしていると思うが、今教育委員会は指示を受けていない。別の部署が、魅力ある都市としての開発について考えているセクションはあると思うが、教育委員会としては受け取っていない。

■参加者

子供が向洋中学校の特別支援学級、下2人が向山小学校の特別支援学級に通っている。統合するということで、実現は難しいかと思うが、教員配置が少ないと思う。2つの中学校が統合するということで、建物の拡充はもちろん、ソフト面、教員の人員拡充もしっかりやっていただきたい。

□教育委員会

教員の配置については、県の教育委員会が配置をしている。この数については配置基準の条例に基づいて配置がされている。当然人数によって、適正な教員数を配置してもらうようにしている。様々な子供たちの支援をするために、市の任用で特別支援教育支援員を市独自で採用している。その状況に合わせて、少しでも子供たちが学習しやすい環境になるように整えていく。これは一度配置したから終わりというわけではなく、年々あるいは毎月で状況が変わっていくので、その都度できることをしっかりやっていく。そもそもの教員数については、きちんとした配置基準に基づいて配置されている。

■参加者

その配置基準が足りていないと思うので、これは国の話だろうと思うが、現場からも声を上げていただきたいという思いが保護者としてはある。

■参加者

先ほどから話を聞いていると、いろいろな質問が出たことに対してほとんどきちんと答えていないような気がする。

例えばスクールバスの4キロはもう決定なのか、そして4キロを超えたらス

クールバスを必ず出すのか。それから本当に新校舎ができるのか。できないのに、この話を進めた挙げ句に、新校舎ができなかったら詐欺。

跡地利用についても前向きにと言っていたが、例えば豊北町の角島小学校は跡地利用として使えると思っていたら、教育委員会がトイレの設置を許してくれていないので何にも使えない。もしそういう状況になったとして、あのときはそうするつもりだったと言われたら困る。そして何より信じられないが、体育館ができたからここがあったらすごく良い駐車場とかになると思ったが、そのことは他の部局がやっているから教育委員会は今の段階では知らないし、この先そうなったとしても知りませんでした、と言うのであれば、説明会をする意味がない。

□教育委員会

おっしゃる通りで申し訳ない。縦割りの行政でなかなか上手に言えないが、スクールバスについては、国がやってきた小学生 4 キロ、中学生 6 キロで交通の補助を出すことを 1 つのルールとしてやって、それからこの暑い中もう少しそこを緩くしなければいけないのではないかという声をたくさん頂いているので、それについては検討中。結論が出ないから、今説明会を実施しても無駄だと言われたら本当に申し訳ない。

ただ、予算も含めていろいろな折衝の中で、その方向であるというのは間違いない。建物ができるかどうかというところでは、大きな施策を決める中で、予算を何十億つけようという形にならない。こういう規模の学校がここにいるのだということについては、市長まで含めてもう既に検討に入っている。予算の確保ができるまでは、作りますという形のものがなかなか見えないということで御理解いただけたらと思う。

市長公約の中にも旧神田小に新しい学校をつくとあるので、市長と教育委員会の思いは一緒ではないかと思っている。もちろん市長と教育委員会だけが決めるわけではない。お金の使い方の中で、そこに学校がいるんだ、これはやるんだというそのバランスの中で予算を作っていくという話になる。ただ、市長も含めての検討段階に入っているのは間違いない。

角島の学校跡地については問合せが多数ある。実際マスが近くまで来ていて、学校跡地のトイレからマスまでの工事に、見積りでは何十万っていうお金ではない桁の見積りが出ていて、角島の使い方が明確になる前に、何百万というお金を使ってよいかというところで、トイレについては止まっているという状態。トイレが止まっているので、中を自由に使えないという意見だと思う。角島の利用については豊北教育支所を中心に、いろいろな引き合いが出ているようなので、スピードアップして検討をしているが、今のところ結論が出ていない。

■参加者

向洋中学校は、まちづくりについて、積極的にボランティアをやってもらっている。ずっと長く続いている。中学校も地元で地域と一緒に活動してきた。両方とも学校が離れて真ん中に行くと、教育委員会として地域の繋がりをどう持っていこうとしているのか。一生懸命地域をきれいにしよう、住みよい町づくりをしようと盛んにやって、中学生も地域の体育大会などで、自分たちの考え方を出してゲームをしようとか、そういう地域との繋がりを一生懸命考えている最中。何年先に統合かわからないが、難しい面がでてくる。教育委員会の立場として、どういうふうに地域とコミュニティーをとってくれと指導ができるのか。自分は名陵中学校出身で、一貫校になり地元に残ったので地域とのつながりは残ったが、ここは中学校がなくなったら完全にストップする。地域との繋がりを教育としてどう考えているのか。

□教育委員会

いつも学校運営への協力、まちづくりに関しても協力いただき有り難い。学校運営については地域の協力なしにはできない状況と思う。

適正規模・適正配置で学校統合する中で、ある学校がなくなるという話を地域に提案する立場である。教育委員会も学校をなくしてよいという気持ちではない。小規模になった学校を運営していくのはなかなか難しい課題があって、これを解消しないといけないという取組である。地域に対してとてもショックな話を持ちかけているというのは、重々承知している。学校の規模を確保していく一方、地域から学校がなくなるということは、相反する部分である。引き続き地域からの協力を頂きたいという都合のいいお願いになるが、学校がなくなったらどうするかという大きな課題があるのも承知している。

人口が減っている状況についてすぐに解決ができない中で、学校の規模は確保していかないとけないという取組をしている。一方で、この人口減少社会の中で、地域の方も新たな取組を模索していかないと、地域も学校ももたないのではないかという危惧を持った中で、相反する課題に取り組んでいる。地域には無理な話をしていることは承知している。地域の中に学校は必要で、地域からの協力は不可欠ということは、今までもこれからも変わらないが、状況の変化にどう対応していくかというのは、この統合に関する議論の中で、話合いの場は今後も行っていかないとけないと思う。心配の部分、お怒りの部分はあるかと思うが、それは引き続き意見を交わしながら進めていきたいと思う。

■参加者

向洋中学校で、文洋中学校と向洋中学校を統合したら、一番遠い距離で何キロか。伊崎とかか。その辺は計算しているか。

□教育委員会

正確な数字はないが、伊崎の方かと思う。想定でいうと向洋や神田両方合わせた場合にも4キロ以上になる地域はないのではないかと考えている。

■参加者（回答不要）

通学に必要なスクールバスがいる距離でもないという中で、学校の位置は環境のいい場所に設置することが一番必要な条件だと思う。向洋校区は体育施設がある、運動公園の中にある学校ということで、非常に環境のいいところの中学校を、あえてなくさないといけないという理由は通学距離だけ。通学距離を中心に持っていきたいから、神田小学校の場所にとっている。他に何もすぐれた条件はないと思う。新校舎を建てるとなると費用もかかるし、文科省が出している部活動の地域移行を考えれば、運動施設がすぐ目の前にあって、非常に恵まれた施設。また文教地区で、高校や大学も近くにあり、子供たちも自分たちの将来像を描きながら学べることを考えれば、すごくすぐれた場所にあると思うが、それをあえてなくす理由が、神田小学校に持っていくのは通学距離だけの問題なので、4キロだったら中学生だと歩く。自分も長門町に住んでいて、高校の東駅へ1年生から歩いて通っていた。歩けない距離では全然ない。それを考えれば、あえてなくす必要がどこにあるのか。通学距離だけだったら、4キロぐらい小学生でも歩ける距離。スクールバスを出さなくていい距離なので、そこもしっかり含めた中で考えていただきたい。

■参加者

目的の中に、よりよい教育環境を実現することとある。とても大事なことだと思う。先ほどから通学の問題、校舎の問題、神田小跡地になる問題、あるいは特別支援学級の教員の配置や人員ことについてもあった。要するに、よりよい教育環境を実現するために、統合し校舎も建築するということだと思う。

説明の中では、小中学校、メリットもあるが課題もあるとのこと。そうではなくこの向洋文洋を統合して新しいところに移転することによって、具体的にこのように教育環境が非常に良くなる、逆に言うと、このままでは、この辺が非常に懸念されるというようなことをぜひ言ってもらいたい。通学距離の問題もあるが、子供たちが主役。行政の都合で統合するという簡単なことは考えていないと思うが、あくまで子供たちが勉学する環境がよりよくなる、改善されるという

ことを具体的に教えてもらいたい。

□教育委員会

小規模校の課題を解消したいということで、特に今回重視しているのが複式学級があるところは解消すべきという考えを持っている。学校統合によって、すべての環境がそれで解決するという話ではなくて、学校規模が小さくなったところを解消する手法として、学校統合で解消していくというのが今の取組である。教育環境をよくする部分に関しては、学校規模が小さいことで、課題を持っているところを解消したいというところ。複式学級に関しては、非常に授業の進行や学級経営が難しい。2学年ある児童生徒の授業を、1時間の中で並行して行っていないといけないのは、教員においては非常に難しい技術がいる部分がある。その部分が単学級の学級運営と複式学級の学級運営に関しては同じではない。そこが小規模になってしまった部分のどうしても解消できないところ。人数がいたらできることが、小規模だったらできないというところが出てくる。そういったところが小規模校の課題として顕著な部分。統合により学級数を確保するというのが取組の狙い。

■参加者

中学校は関係ないのでは。

□教育委員会

中学校に関しては、複式学級になっている中学校はほとんどない状況。中学校についても、5学級以下を優先対象校ととらえている。小学校と中学校は、学習集団としては違うステージにある。中学校の場合、5学級以下になるとクラス替えができなくなる。1学年1学級だけの場合と、2学級ある場合は大きく状況が変わってくる。中学校は高校に接続する年代でもあるので、高校になるとまた大きな組織になってくるので、その準備段階というところはある。中学校に関しては、複数学級築ける学年、学校規模というのが必要だと考えているので、5学級以下のところについては、優先的に取り組むべきと考えている。

■参加者

児童生徒数の推移の令和12年、5年後の生徒数だが、わずか5年後もう生徒数が160人で、各学年2クラスになっている。当然それから西高の附属に行く生徒等を考えたら、もうすでに1学級になってしまう。10年後になったら、果たして2学級に学級が確保できるのかどうか。5学級以下になってしまっ、また統合対象になるのではないか。現在から10年を考えてみても、この文

洋向洋の統合だけでは済まなくなってしまうのではないか。また5年後ぐらいに統合案を出して、また面倒くさいことをするのか。それより、例えば日新と向洋と文洋を最初から統合して、新しく10年後に学校として成り立つようなところを作るのか。一番初めの計画の段階のところに触れるが、10年後とか15年後の、もう少し先のビジョンを見て計画を立ててはどうかと思う。

川中とか勝山とか東部とか、住宅地がどんどん広がっていく可能性のある地域については現状維持は可能かもしれないが、そういった大規模な住宅地がこれから建ちにくいところについては、もっと先のことを考えて検討をしてはどうか。

□教育委員会

5年よりも、長期を見据えてそこを目指すことは理にかなった考えと思う。一方で例えば、3期計画の3小2中を統合した場合に通学の問題が非常にある。いきなり大規模な統合のパターンの実行を目指すのは、その実行に向けて相当な期間がかかると思う。今回は小規模校に既になっているところの課題を解消するのに、まず統合を進めていこうということで、この校区に関しても改めた。

長期を見据えて、大規模な、例えば中学校区で言うと日新中学校も見据えた考え方は1つの考え方だとは思うが、それを議論のスタートにするのはなかなか難しい。3期計画の提案を踏まえて、今回はまずは小規模校を解消するということに重点をおいた。

■参加者

説明で市教委の留意点を6点ほど挙げたと思うが、それが印刷されていないので、一生懸命メモを取ったが取りきれなかった。他の説明会のときは、ぜひ、そこは印刷してもらいたい。スクールバスのこと等があったと思う。

それから、もう既に統廃合された学校でのメリットやデメリットを教えてください。豊北は小学校1校になってしまって、昨年確か生まれた子供が1人しかいない。豊北町全体でというぐらい地域がなくなってしまう。それから、今日は時間を1時間とのことだが、本当に一生懸命聞く気があるのであれば最初から1時間と言うのはどうかと思う。この後の豊浦町で4回あるが全部参加するつもり。最初から1回1時間とか言われたら多分また文句を言うと思うがそれをやめていただきたい。

□教育委員会

時間について目途ということで話している。今日も15分過ぎている。きちり1時間で終わることではないのでご理解を。

■参加者

2人前に質問された方は、向洋中学校を存続した場合と、神田小学校の跡地にもっていった場合のメリット、デメリット、向洋よりも神田へもっていったほうがよいということ、教育環境とかいろいろなことでメリットと、いいことばかりではない悪いこともあるから、それを質問されたのでは。メリットは検討しているのか。

□教育委員会

メリットは検討されている。メリットについては距離の話はしている。もうひとつ、すでに学校用地としてこの校区の中にある。より真ん中にあるということ。

校舎を、稼働中の学校で建設することは、学校運営上でも工事上でも、非常に難易度が高くなる。工事には長期間が見込まれるので、その部分をあえてもっていくことよりも、より真ん中に近い部分の学校用地に校舎を作ることがスムーズに移行ができると思っている。

神田小学校の場所が、広さの部分でいうと向洋の方が広いというのは明らかで、交通機関、道路状況についてもこちらがいいというところがあるが、基本的には学校については徒歩で通うので、全体を見渡した場合に通いやすい場所に重点を置いている。あとは、円滑に移行できるということ。

■参加者

1番の(1)旧神田小が、皆の理解が得られなかったら、この1番の話は消えるのか。また次の案が出るのは、さらに5年後10年後の話になるのか。

□教育委員会

学校統合については、まず地域の理解と協力のもとに進める。今までもこの取組の中で統合した学校はいくつもあるが、いずれも地元の皆さん、PTA、自治会等もろもろの関係者と意見交換をして協議し、そこで統合に関しては賛同するという確認ができたところのみ実行している。学校位置も含めて今提案しているのが神田小学校跡地なので、この案で合意できなければ実行しないということになる。計画期間が5年のため、5年ごとに定期的には見直しを行うが、中間で変更する必要がある項目に関しては、変更していくという対応はありえる。

■参加者

前回の説明会のときも、旧神田小学校に移行することに関しては、ほぼ反対だったと思う。その後、向洋中学校と文洋中学校の人に聞いても、それが賛成という人はほとんどいなかった。それでも、教育委員会が神田小学校にこだわる理由は何なのか。

□教育委員会

文洋中学校の生徒だけではなく向洋中学校の生徒も少なくなっている。生徒がずっと多ければそのまま学校は残る

■参加者

統合に反対しているわけではない。場所を言っているだけ。なぜ神田にこだわるのかを聞きたい。

■参加者

神田にもっていったらこういうメリットがあるのだということ聞きたい。

■参加者

先ほどそれを答えているが、こちらに伝わらない。

■参加者

距離以外の問題で、デメリットメリットがあるのか。

■参加者

先ほど新しく作る時は、運営しやすいって話をしていたのでは。

□教育委員会

文洋も向洋も、スピード感を持って何とかしないといけないところがある。生徒数が少なくなっている。これは間違いない。統合については何とかしないといけないところで、もっと20年先を考えたら、ここに人がいないのではないかとそういう議論もあるのは承知している。

子供がぐっと少なくなっているところに、このあたりの地区で、地元で通いたいという子供がいたら、それは新しい学校で、いい環境で、そこに通うってことがもし可能であればそこに通ってもらいたいし、そこで古い校舎を我慢するのではなく、新しい校舎で新しい学力をつけてもらいたい。今チャンスではないかと思う。工事をしながら授業するのはストレスと思う。人がいないところで工

事をして綺麗になって入ってもらうのは、子供たちにとってはとてもいい工事の仕方だと思っている。

文洋も向洋も古い。どこかで建て替えをしないといけない。このままずっとというわけにもいかないと思う。いろいろな思いがあって、人が少なくなっている、建物も古くなっている、そこに使える市の土地があるというところ。このあたりに学校がなくなることは考えられないというところがあって、そこに新しいものを建てて、その周りもそれに伴って綺麗になっていくのではないかと考えているところ。

それを前回は、向山小学校も入れて、小学生があそこに来たら、狭いところに来たら大変だろうという大きな意見をいろいろなところから頂いた。敷地が狭いので心配された。今回は中学校と中学校で新しいものを建てて、そこで地元がこちらとこちらにそれぞれ中学校があったけれど、この2つが我々の地元であるという、新しい地元の組立てが、2中学校区がこうなったという形で、理解をしていただきたい。

ここ（向洋）がよいという意見は以前から頂いているし、実際に来ても良い場所なので否定するつもりもないが、トータルで見たときに、今の人の減り方、工事のタイミングというところで行くと、旧神田小のところに文洋も向洋も一緒に来て、新しい校区を作って、今までは多くの校区が競ったかもしれないが、1つの校区として、1つの中学校の中で競うような形で、よりよい学校ができないかなというのが思い。旧神田がよくないという意見については受けとめないといけないが、この計画をぜひ進めていきたい。

■参加者

教育委員会の一番悪いところは、いろいろな意見を聞いてその答えがこうだったというのを紙にまとめて、どこにも公表しない。ここだけで終わる。いろいろなところでいろいろな意見が出ている。それをちゃんとまとめて、オフィシャルにして公表してほしい。そうすると、同じことを何回も言わないで済む。

自分も3年間中学校のPTA会長をした。1年に1回教育委員会と話す機会があるが、そこで意見を出しても返ってこない。紙でも返ってこない。

結局1年でリセット。ここに座っている職員も来年度、再来年度にはどこかへ行く。意味がない。自分たちはずっと生活しているので、そこで子供もずっと生活している。教育委員会が作った計画で子供の将来が左右されたら腹立たしい。子供に対して顔向けできない。

今録音とかして、AIで分析すれば議事録を作ってくれる。データをどんどん使って、聞いた意見がこうだったとか、これに関しては今検討しているとか、これに関しては保留中だとかそういうことを、すぐオフィシャルにしてほしい。こ

れは、前田市長に言わないとだめか？

■参加者

いろいろな意見が出て、皆さんすごい郷土愛というか、この地域が好き。それですごく熱血になって、子供たちのことを思いながら、意見を述べられていると思う。一番肝心な、PTAの子供のいる保護者の参加が少ないのが残念。いろいろな案があるし、また市役所の案もあるが、地域の声をしっかり聞いて、本当に子供たちが学ぶところの地域をどこにすれば一番いいのかということ、もう1回考えていただいて、私たち（高齢者）のことも考えながら、よりよい学校づくりをしていきたいと思っている。今日本当にいろいろな意見を聞いたが、本当に皆さん、子供にとってすばらしい意見を言われたのがよかったなと思っている。だから本当に子供たちが、よりよいところで学べるように頑張っていっていただきたい。